

業務の実施方針

〔実施方針は、業務への取組体制、設計チームの特徴、特に重視する設計上（意匠・構造・設備の各分野）の配慮事項（提案を求めている内容を除く）、その他の業務実施上の配慮事項等を簡潔に記述します。〕

市民の理想を実現する設計体制とコラボレーション

古賀市が目指す、「集い」「学び」「交わり」が活性化する場を実現する為に、既存施設や利用状況、将来計画などを理解した上で、市担当者、施設管理者、利用者代表の方々などと十分協議を重ね、新しく、機能的で合理的な技術提案を行い、この地域にふさわしい建築と周辺環境の整備を実現します。

取組体制、設計チームの特徴

■ 専門家集団とバックアップ体制により細部にも配慮

- 同種の施設を多く手がけた総括技術者（PA）を中心に、地元の九州支社スタッフを主体として、地域に密着したきめ細かい対応が可能なプロジェクトチームを編成します。
- プロジェクトチームの建築担当主任技術者が各分野と連携をはかりながら、細部にわたる取りまとめを行います。
- 設計本部によるデザイン検討会議、品質環境管理部による基本設計の図面検証を行うなど、第三者チェックを実践することにより品質管理を徹底して行います。

■ 外部の各種専門家とのコラボレーション

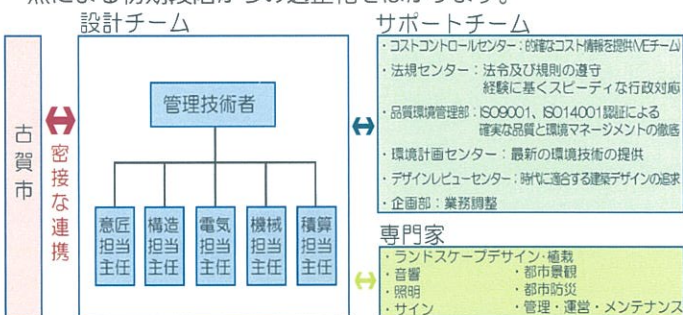
- 外構や植栽計画など、各分野の専門デザイナーと共に行います。

■ 環境負荷削減建物の実現に向け一貫したフォロー体制

- 環境負荷削減目標を達成するため、弊社専門部署の環境計画センターにより、設計時から運用まで一貫してフォローします。

■ 設計初期段階からのコストコントロール

- 意匠、構造、設備の全体を通して設計の各段階において、コストバランスに配慮しながら建設コストのコントロールを徹底し、目標工事費を遵守します。
- コストコントロールセンターのVEチームにより、第三者的視点による初期段階からの適正化をはかります。



その他の業務を実施する上での配慮事項

■ 提案型の設計プロセス

- 業務開始と同時に、予算・要望を反映しながら柔軟に計画を検証します。
- 発注者と施設運営関係者へのヒアリングを踏まえ、発注者目線で提案型の設計プロセスとします。

■ 費用対効果を徹底検証する設計

- 内外装の耐久性・維持管理性とコストの比較など、ライフサイクルコストに配慮した費用対効果の検証を十分に行った上で仕様を提案します。
- 熱源や設備システムについて、使いやすさ以外にインシタルやランニングなどの比較を行い適切なシステムを提案します。
- 模型や3次元モデルによりビジュアルにもわかりやすく説明します。

特に重視する設計上の配慮

■ 誰でも利用しやすい施設的设计 - バリアフリー

- 開放的な空間構成により、誰でもわかりやすく、死角のない、物理的にも心理的にもバリアフリーな施設設計とします。
- 既存施設のバリアフリー動線を確保し、既存を含めたわかりやすいサイン計画を行います。

■ 安全・安心の災害対策

- 保有水平体力1.3以上の高耐震設計（社内基準）とします。
- 天井・設備機器など建築非構造部材の耐震性を確保します。
- エネルギーや通信手段等のインフラの多重化により、災害時の運営継続、又は一時避難場所への支援施設としての利用を考慮します。
- 災害時に必要な機能を装備します。（非常用発電機、マンホールトイレ（排水ルート）の確保等）

■ 的確なスケジュール管理

- 設計及び監理業務においては、プロジェクト進行の目標となりマネジメント管理の基本となる全体工程を提示し、進捗状況を明確にします。また様々な検討課題の進捗状況を工程上で示す事により、全体のスケジュール管理を徹底します。
- 特に基本設計の初期段階が重要で、初期に十分な人員を投入する「フロントローディング手法」を導入します。

